

自分に負ける

2025. 7. 17

この前の土曜日に、ソフトテニスの大会があった。福島市の中学生が出場する大会である。3年生が部活動を引退した学校にとっては、新チームとして臨む初めての大会となる。多くの1年生にとっては、デビュー戦となる大会である。

部活動指導員として会場へと向かった。集合時間までに全員がそろっている。準備運動をしてから試合前の練習を行った。普段の練習がしっかりしているためか、スムーズである。あとは、試合開始を待つばかりである。

1年生は、まだルールもよくわからない。試合の進め方にも不安がある。審判もまだできない。それでも、大会に出場して試合をすることで、実に多くのことを学ぶことができる。体験に勝るものはない。とはいえ、こちらとしても心配である。ベンチに入り、試合の進め方を教えた。負けてしまった後は、審判台の脇にいて、審判の選手をサポートした。人に助けられながらも、試合をし、審判をすることで、大きな自信を得ることができる。

この大会には、県大会に出場する選手はいない。第1シードは、クラブチームのペアであるが、今回の県大会には出場しない。我がチームの2年生ペアとしては、このペア以外には勝ちたいところである。まず2年生の1ペアが、準々決勝でこの第1シードとあたった。こういうときは、相手に向かっていき、気持ちで負けないことである。そうすることで、自分の力が出やすくなる。たとえば、負けたとしても得るものがある。だが、現実は厳しかった。完全に逃げていた。相手に負けているのではなく、自分自身に負けているのである。これでは、勝負にならない。

2年生のもう1ペアが決勝まで進んだ。相手は、第1シードのペアである。やはり、向かっていくことはできなかった。同じように、相手に負ける以前に、自分自身に負けていた。このペアには、自分に負けるということを説明した。どうやら、理解したようである。相手に負けたことよりも、自分に負けたことが悔しかったようである。

こういうペアには期待できる。この大会を通して、自分に負けるということを体験できたことが大きい。これからが楽しみである。実は、デビュー戦である1年生ペアも1試合目を勝利し、2試合目で、この第1シードにあたっている。試合に負けたのは仕方がない。だが、2年生の2ペアよりも、相手に向かっていくことはできていた。相手のことがよくわかっていないということはあるだろう。それにしても、戦う闘志のようなものを感じた。この1年生ペアは、1試合目も2試合目も、練習よりもいいプレーをしていた。正直、驚かされた。ポテンシャルの高さを感じた。これからが楽しみである。

やっぱり、大会に出て試合をすることで、学べることは多い。とりあえず、表彰式に出て準優勝の賞状をいただいた。チームにとっても大きな励みとなるだろう。このチームは、これからである。今度は、自分に負けることなく、相手と勝負をさせたい。そして、強気で向かっていくということを体験させたい。